

講義コード	519100102	
講義名	教育原理 CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日	水曜日	
代表時限	3 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	横井 夏子	女子短期大学部
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし

授業の概要

授業の概要

本授業では、教育を営む様々な原理、教育学の基本的な理論を学ぶ。具体的には、教育に関わる基本的な概念や思想、学校制度や幼児教育制度の特質、教師という職業の特質、教育の現代的課題等である。これらの多様な論点を、「幼児期の教育」という論点と関連させて考察を深める。

授業の方法

①プレゼンテーションの方法

授業では、板書と配布印刷物を活用します。

②授業形態

講義形式で授業を進めます。授業内容について、他の受講生と意見交流をする機会を設けます。

③アクティブラーニング

適宜リアクションペーパーを使用するほか、グループで話し合う活動も行います。

④課題に対するフィードバックの方法

授業で記入したリアクションペーパーは、受講生同士の意見交流に用います。また、教員からもコメントします。

授業の到達目標及びテーマ

本授業では、子どもの教育に責任を持たなければならない専門職に必要とされる、教育学の基本的な理論・原理について学びます。幼児期の教育が、長い人間の一生における出発点に位置づくものであることを考えるとき、教育の専門職は、広く「人間の成長」という観点から幼児期の教育が持つ意味を考察できるようになる必要があります。また、教育が社会の中で営まれており、公の性質をもっていることから、教育をとりまく諸課題は、社会と関連づけて考察されなければなりません。そこで、本授業では、幼児期の教育を大切な論点としつつも、その点にのみ視線を向けるのではなく、広く「人間の教育とは何か」という関心に基づいて議論を進めることを目指します。

本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」を達成するための科目です。

授業計画表

回	項目
第1回	オリエンテーションー作短で教育原理を学ぶ
第2回	教育とは何か
第3回	教育目的とは何かーその一般的特徴や法令
第4回	子どもとはどんな存在か (1) 子どもの思想と歴史
第5回	子どもとはどんな存在か (2) 保護政策の変遷
第6回	子どもとはどんな存在か (3) 子どもの権利と教育改革
第7回	子ども研究と「個性尊重」ー乳幼児教育の思想
第8回	人間の能力・発達・学習を支える (1) 近代教育制度の成立と展開

第9回	人間の能力・発達・学習を支える（2）学校教育の思想
第10回	人間の能力・発達・学習を支える（3）生涯学習社会と教育
第11回	教育による平等・不平等—国内外における教育の機会均等
第12回	さまざまな教育実践
第13回	教育の現代的課題（1）学校と家庭
第14回	教育の現代的課題（2）社会と教育
第15回	まとめ—教育の現代的課題を考え続けること

授業時間外の学修

予習として、事前に配布する資料の読了を求めます。各回の予習には60分かかると想定されます。また、復習として、配布資料および板書事項の見直しをしてください。内容理解を深めたり、自らの思考を整理したりするために、ミニレポートを課すことがあります。各回の復習には120分かかると想定されます。

実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

ディプロマポリシーとの関連

①幼児教育者観	②知識・技能	③実践力と実務能力	④人間性と協調性
◎	◎	○	○

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を越えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
問題解決能力	他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができるとともに、解法が定まらない他者に的確なアドバイスができる	基本的に他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり他からの支援を少し受けながら自身の能力で課題を解くことができる	参考資料や他からの支援によってもなかなか自身の能力で課題を解くことが難しいので、できるだけ一緒に課題解決ができるよう支援している
分析・考察力	調べた結果のみではなく、それを自分なりに解釈し説得力のある形で結論づけていると認められる	調べた結果のみではなく、それを自分なりに解釈し結論づけていると認められる	調べた結果のみではなく、それを自分なりに解釈し結論づけようとするが、説得力に欠ける	調べた結果のみを提示するに留まる場合は、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
文章構成力	高等教育を受ける者として相応しい文章表現ができており、レポートの文章構成が優れていると認められる	高等教育を受ける者として相応しい文章表現ができておりと認められる	高等教育を受ける者としてやや相応しい文章表現ができておりと認められる	高等教育を受ける者として相応しい文章表現ができていない場合には、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている

成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験	70%	学期末に定期試験を行い、評価します。
小テスト等		
成果発表		
授業への貢献度	30%	授業内でのコメント・質問の内容を評価します。復習を兼ねたミニレポートを課すことがあります。

